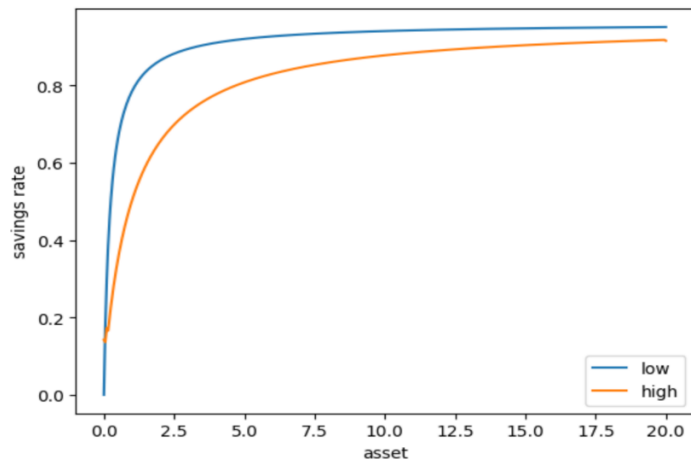


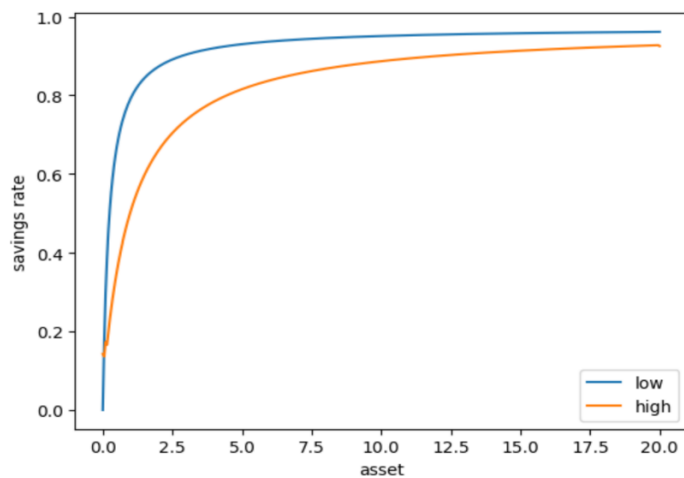
定量的マクロ経済学 a 後半最終課題

1.



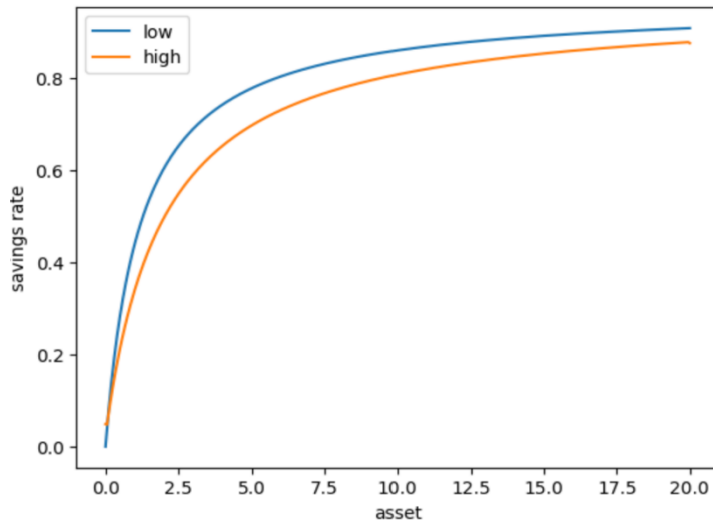
貯蓄率は現在の資産の増加関数である。理由として、今の資産が増えれば、経済的な余裕が生まれ、今の消費より将来を考え、貯蓄を増やすからである。

2.



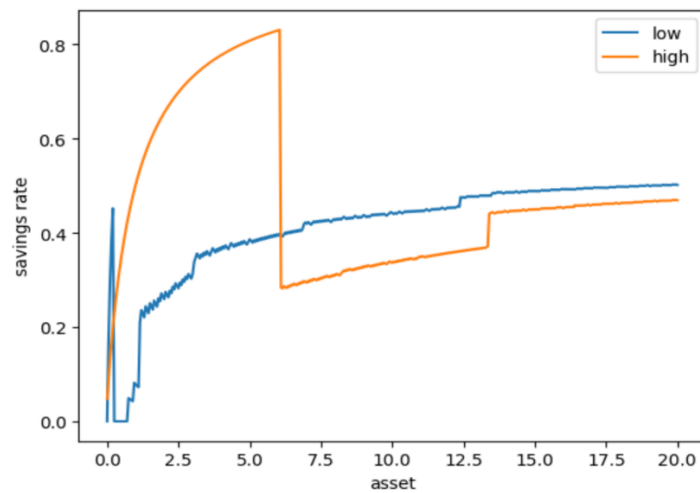
資産所得税率 30% を課したとき、課さないとき（1 番）と比較してグラフに変化は無いように見える。割引因子が 0.98 と大きいことから家計は次の期を重要視しているため、税が課されても貯蓄行動を変えないと考えられる。

3.



一括補助金を与えると、現在の資産に関する貯蓄率の関数の傾きが1と比べ、緩やかになる。つまり現在の資産が増えると、貯蓄に回す割合を減らすということである。これは、補助金により資産が増え、余裕が生まれ、消費に資産を回すからである。

4.



時間選好率を 0.98 から 0.5 に下げたとき、貯蓄行動を表すグラフは上記のような滑らかでないものになる。まず、将来の価値を比較的低く見ていることから、貯蓄率が大きく下がった後は $\beta = 0.98$ のときよりも貯蓄率は低い水準となっている。また、現在の資産が十分小さく、経済的に不安定なときには、次の期のために高い割合の貯蓄をすると言える。現在の資産水準がその閾値を超えれば、安定した貯蓄行動に移ると考えられる。